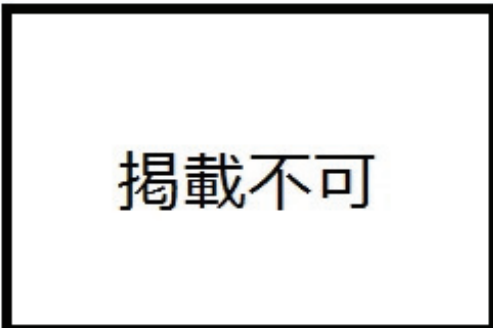




地域に根ざした作品や、上映機会の少ない隠れた良作を集めた「岡山映画祭2020」（同映画祭実行委主催）が20日、開幕する。12月6日までの週末に、岡山県天神山文化プラザ（岡山市北区天神町）、岡山県立図書館（同丸の内）で計26作品を上映する。（山本恭子）

岡山映画祭 つながりテーマ

20日開幕 26作品上映



映画「もうひとつの明日へ」の一場面（©もうひとつの明日へ制作委員会）

隔年で開催し、12回目となる今年のテーマは「広くつながる!」。新型コロナウイルスの影響で交流が減った今だからこそ、映画を通じてつながろうとオンライン配信も取り入れて盛り上げる。

オープニングを飾るのは長野県の市民団体に密着したドキュメンタリー「もうひとつの明日へ」。人々が互いに行き交うことを地域通貨を通じて交換し、支え合う試みを追い、真に豊かな暮らしとは何かを問う。備前焼に情熱を燃やす人々と、陶芸の道を志す若い女性の交流や成長を描いた「ハルカの陶」、沖繩の現実を色濃く反映させた山城知佳子監督の作品集も紹介する。

コロナ禍で訪れにくくなってきている海外の作品も取り上げる。台湾映画「日曜日の散歩者」は、日本統治下で結成された詩人集団の葛藤などを記録したドキュメ

上映作品と日程

◆岡山県天神山文化プラザ	
20日	前夜祭 ● 後6時半
11月	21日 「もうひとつの明日へ」(孟昭) ●● 前10時 「性は善」(川口吉太郎) ●● 後1時半 「少年美談 清き心」(内田吐夢) ●● 後1時半 山城知佳子監督作品集 ●● 後6時
	22日 「えんとこの歌」(伊勢真一) ●● 前10時 「ハルカの陶」(末次成人) ●● 後1時半
	27日 「RIVER」(広木隆一) 後7時
28日	中短編映画の力 ● 前10時
◆オンライン参加のみ	
29日	WEB映画カフェ 前10時
◆岡山県立図書館	
12月	5日 「花火思想」(大木响) ● 前10時 「双子歴史・私小説」(原将人) ●● 後1時半
	6日 「日曜日の散歩者」(ホアン・ヤーリー) ● 前10時 クロージングトーク「広くつながる!」 後2時

(●)から(●●)内は監督名 ● オンライン配信あり ●● 監督のトークあり

オンラインの取り組みも

オンライン。上映に合わせホアン・ヤーリー監督がオンラインで、今後の映画交流のあり方や可能性を語る。真庭市在住の映画監督山崎樹一郎さん(41)は、フランスの映画教育について報告する。

岡山県内で撮影、製作された中短編作品も充実。岡山表町の中之町商店街有志が製作した青春映画「思い出はいいよ」と、岡山市在住の若手監督が手掛けた「酒と泪と世界の終わり」、就実高、玉野高の生徒が製作した映像作品などが登場する。没後50年を迎える岡山市出身の巨匠、内田吐夢監督の無声映画上映会や講演もある。

小川孝雄実行委代表は「コロナ禍の中でも工夫を凝らして交流の場を設け、観客と一緒に映画祭をつくり上げたい」と話す。

1作品につき一般千円、中高大学生500円。オンライン上映も1作品千円。事前予約制で電話やメールで申し込む。空きがあれば当日の申し込みも可能。運営ボランティアも募集している。同映画祭事務局(086-252-17606)。